

自立援助ホーム入所者・退所者に関する研究

—職員に求めている役割や必要とする支援について—

氏名 島子 留実

(駿河台大学大学院心理学研究科臨床心理学専攻 修士課程 2年)

指導教員 近藤 育代 准教授

キーワード：自立援助ホーム, 当事者, 支援

問題

自立援助ホームでは、施設退所児童だけでなく、家庭での親子関係不調、虐待、家庭裁判所などから委託される子どもの受け入れを行っている(厚生労働省, 2015)。また、「生き生きと生活できる場、安心して生活できる場を提供し、大人との信頼関係を通して社会で生き抜く力を身に付け、子どもたちが経済的にも精神的にも自立できるように援助する事」を目的としている(全国自立援助ホーム協議会 HP 「自立援助ホームとは」)。上記のような経済的・精神的自立を目的に、職員は支援を行っているが、子ども一人一人の課題やニーズが異なるため自立への支援が不十分なまま、退所してしまう子どもが多いことが現状である。高橋(2012)の職員への調査では、子どもたちが自立にあたって抱える課題として、生活面における困難などが挙げられた。他にも退所後には、「就労に関する困難」や「居場所の不安定さ」などが挙げられた。島子(2020)も、子どもへの適切な支援を検討するため、職員の視点から子どもへの関与について調査した。職員から挙げられた視点として、入所中の子どもは困りごとに気づきにくい、退所後社会へ出た際に多くの困りごとに気づく、といった退所後支援の必要性に関する語が見られた。以上のことは、支援をする職員の視点から得られたものである。

伊藤(2010)は、利用者の声をどれだけ聴こうとしているかという姿勢は、利用者との信頼関係の質に影響すると述べている。そして、子どもが施設に何を求め、どのような気持ちで生活しているのかなどについて知ることは、子どもの権利擁護という視点においても重要であるとしている。そのため、入所中に抱えている課題はどのようなものか、その際にどのような支援を必要としていたかなどを当事者に聞き、悩みに気づかない、あるいは、悩みがあっても相談できない背景などを明らかにし、結果を職員にフィードバックすることで、必要な働きかけをすることにつながると考える。また、退所者を対象に施設退所後のアフターケアに関する調査も行うことで、退所後の支援にあたっての課題を知ることや、退所者の視点から入所中の支援に対するニーズを客観的に把握し、入所者に対する支援につなげることもできると考える。

目的

実際に支援を受けている入所者・退所者にインタビュー調査を行い、職員に求めている役割や必要としている援助内容、援助希求行動のプロセスについて明らかにする。

方法

対象者：調査協力への同意が得られた入所者・退所者(いずれ

も18歳以上)とした。予備調査4名(入所者3名、退所者1名)。本調査8名(入所者6名、退所者2名)であった。

予備調査：入所中の子どもや退所者はどういった課題を抱え、どのような支援を望むかといったことについて、質問項目を作成し、自由記述式のアンケートに回答してもらった。それを基に、半構造化面接によるインタビュー調査を行った。インタビュー内容はKJ法を用いてまとめた。

本調査：予備調査の結果をもとに質問項目を整理し、予備調査の調査協力者とは別の調査協力者に自由記述式のアンケートに回答してもらった。それを基に、半構造化面接によるインタビュー調査を行った後、愛着尺度に回答してもらった。その後、愛着のタイプ毎にインタビュー内容に関してKJ法を行った。また、入退所者全員のインタビュー内容から援助希求行動のプロセスを検討するため、M-GTAを行った。愛着尺度：Bartholomew&Horowitz(1991)のRQ(Relationship Questionnaire)尺度日本語版(加藤, 1998)を使用した。

結果と考察

M-GTAの結果から、利用者は、基本的には一人暮らしに向けた支援を求めて入所してきている一方で、施設出身者ならではの複合的な困難(金銭面の余裕の無さ、それらによる安定した就労・就学の困難や、発達特性や知的能力面の低さによる生活管理の困難、過去の愛着体験による対人関係の不安定さなど)を抱えながら生活する厳しさが明らかになった。また、愛着のタイプによって援助希求行動のスタイルが異なることも明らかとなった。しかし、根本的には、職員と利用者との安定した信頼関係を築くことが重要だと考えられた。利用者は、現在の入所施設に関わらず、以前の児童養護施設も含めた一旦信頼関係を結んだ相手とのつながりの継続を基本的には望んでおり、その個人的なつながりが、施設とのつながりを維持し、その後の生活の基盤にしようとしているという、個人的なつながりの重要性が示唆された。

主な参考・引用文献

- 伊藤嘉余子(2010). 児童養護施設入所児童が語る施設生活—インタビュー調査から—. 社会福祉学, 50(4), 82-95.
- 加藤和生(1998). Bartholomewらの4分類愛着スタイル尺度(RQ)の日本語版の作成. 認知・体験過程研究, 9(7), 41-50.